

## ◎ 棚田ウェディングをはじめとする様々な棚田商品の開発・販売を通じて、上勝町で新たな地域ビジネスの創出を図る

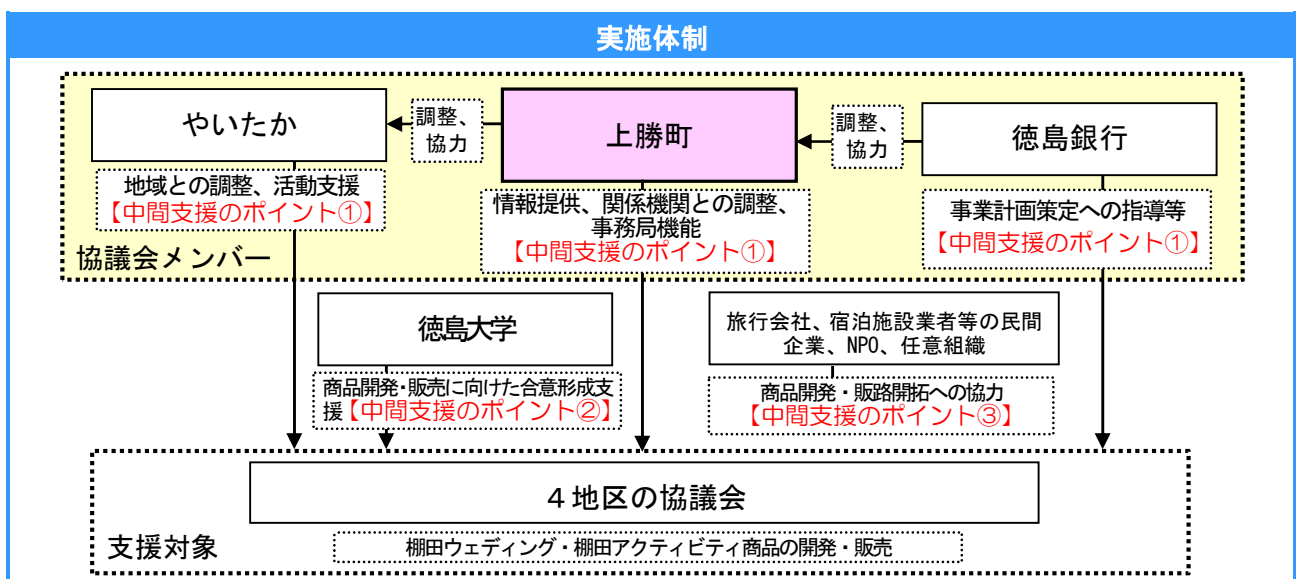
No. 7	かみかつ棚田のめぐみ活用会議（徳島県上勝町4地区（八重地・市宇・田野々・檜原））
事業名	かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネスづくりプロジェクト

**事業の概要**  
 持続的な棚田の保全・活用を図ることを目的として、担い手となる八重地・市宇・田野々・檜原の4地区の協議会に対して、上勝町における棚田資源を主とする地域資源を活用した感動あるビジネスの創出（棚田ウェディング、棚田ライトアップ、棚田ノルディックウォーク、棚田オープンファーム等）を支援する。具体的には、棚田のめぐみビジネスフレームの検討支援、棚田のめぐみ商品開発の検討支援、販売促進・販路開拓活動の支援、棚田のめぐみ商品販売・実施支援等を行う。

主な構成主体	中間支援の内容
①上勝町	上勝町の全体的な集落の調整、関連する支援団体との調整、事務局機能を担う。
②やいたか	八重地（やえじ）・市宇（いちう）・田野々（たのの）・檜原（かしはら）の4つの地区の代表で設立した任意組織で、各地区の協議会の活動を支援する。
③徳島銀行	事業計画策定に関する指導、つなぎ融資支援等を担う。
④徳島大学 ※	上勝町における環境や景観保全に関する調査で15年ほど関わっており、新たな商品開発・販売に向けて町内の合意形成等を支援する。
⑤旅行会社、宿泊施設業者等の民間企業、NPO、任意組織等 ※	棚田ウェディング・棚田アクティビティ商品の開発・販路開拓に関して、必要に応じて協力・支援を行う。

※…体制の構成メンバーではなく、外部の協力機関

支援対象		地域づくり活動の内容
①八重地区活性化協議会	にほんの里 100 選に選定された上勝町・八重地の棚田で活動する集落組織。	集落ビジネスの創出
②市宇地区活性化協議会	市宇の棚田において棚田等を活用した活性化運動を展開。	
③神田満天星会議	かおり風景 100 選の田野々の棚田周辺で茶屋運営による集落活性化運動を展開。	
④檜原の棚田村	棚田 100 選、重要文化的景観の檜原の棚田保全活性化運動を展開。	



## 取組内容

### 取組 1：棚田のめぐみ連携型ビジネスフレーム検討支援

連携の項目・課題・懸念等を把握分析する関係者アセスメント、連携・協働による本活動の理念、コンセプト、目標、仕組み検討を行った連携型ビジネスフレーム構築、連携型のビジネス経営の検討を実施した。

### 取組 2：棚田のめぐみ 連携型商品開発検討支援（新規・リニューアル）

棚田里山ウェディング等の商品開発に向けた情報の収集、連携プログラム開発を行った棚田里山ウェディング等商品開発、棚田ライトアップ、棚田オープンファーム、棚田ノルディックウォーク、棚田オーナー制度リニューアルの開発を行った棚田里山体験商品開発（棚田アクティビティ）、連携プログラム講習会を実施した。

### 取組 3：連携型販売促進・路開拓活動支援

支援対象、連携組織の意向・調整を行い作成した連携型 PR ルールづくり、各アクティビティのチラシ作成、インターネットでの PR を実施した。

### 取組 4：棚田のめぐみ連携商品試行実施にかかる検証支援

棚田ウェディング等の販売、棚田アクティビティ試行実施についての検証支援を行った。

### 取組 5：会議・ワークショップ開催

棚田のめぐみ活用会議や個別推進ワークショップの開催、活動たよりの発行を行った。

## 1 中間支援の活動プロセスにおける課題と対応

プロセス	支援対象	中間支援	成果・効果
取組の背景・動機	<ul style="list-style-type: none"> <li>過疎、高齢化、木材不況、後継者難など中間産地の構造課題が顕在化している。</li> <li>棚田、里山、自然環境、人・組織等を活用し、多様な組織による多様な活性化活動等が展開されているが、各地域毎各組織毎の活動にとどまっている。地域ブランド構築、地域の魅力発信、産業構築などが課題。</li> <li>多様な組織による多様な活動は地域資源の保全活動・交流活動の域にとどまっており、棚田フィールドそのものをビジネス資源とした取組が未開発となっている。</li> <li>町の活性化に向けて、これまで企業誘致に取り組んできたが、実際に継続的な活性化には結びついてこなかった経緯がある。</li> <li>集落とともに生きていくという姿勢が大切であり、住民が自ら地域資源を活用して生活できる（生業ができる）ことが重要である。</li> <li>上勝町には 55 の集落があり、策定した「美しいまちづくり基本条例」に基づき、各集落の特性を踏まえたプランづくりを進めていく必要がある。</li> </ul>		
体制構築のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 23 年度に開催した全国棚田（千枚田）サミットの運営に関わった 4 地区（八重地・市宇・田野々・榎原）が、平成 24 年に「やいたか」を結成。4 地区の集落活性化活動を行うことを目的とする。アドバイザー兼コーディネーターとして、徳島大学の澤田氏（客員教授）も関わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やいたか、上勝町、徳島銀行の連携により協議会を設立し、本事業への参画が決定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施以前より、4 地区の協議会が組織を結成し、外部の協力機関とも関係性を有していたことから、体制の構築に至った。</li> </ul>
支援対象の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 地区の協議会から、上勝町へ本事業への参画についての提案があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案にあたっては、徳島大学の澤田氏によるアドバイスが行われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棚田資源等の地域資源を活用した集落の活性化に取り組む対象の選定に至った。</li> </ul>
商品企画・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象の地域づくり活動は、これまで各地区の協議会において個別に展開されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別聞き取り方式による連携の項目や課題、懸念等の把握・分析（関係者アセスメント）に対するアドバイスを行い、それをもとに、連携・協働による活動の理念、コンセプト、目標、仕組みの立案の支援、連携型ビジネスに向けた経営的観点からのアドバイスを行った。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【中間支援のポイント①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者アセスメント（合計 21 回）では、棚田のめぐみ感動ビジネスの認知度・関心・取組に対する意向や、集落再生に関する活動の概要や課題、意思決定の方法等について意見を伺った。</li> <li>その結果を分析し、ビジネスフレームの検討を行い、参画組織間での共有を図った。</li> </ul>

プロセス	支援対象	中間支援	成果・効果
商品企画・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚田ウェディング、棚田アクティビティの検討・実施を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚田ウェディング商品の開発に向けて、棚田オーナー経験者による棚田ウェディング試行において、プログラムの作成支援を行った。</li> <li>・ 棚田ノルディックウォーク、棚田ライトアップ、棚田オープンファーム、棚田オーナーリニューアルは、関係者アセスメントや棚田アクティビティ検討ワークショップでの複数回の議論・検討を重ね、連携プログラムとして開発した。</li> <li>・ プログラム開発にあたっての情報提供や、プログラム講習会を行った。</li> <li>・ 各商品の試行後、検証の場を設け、徳島大学澤田氏や赤十字救急法指導員、上勝自然体験学習研究会代表等のアドバイザーによる検証を実施した。</li> </ul> <p>【中間支援のポイント②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚田ウェディング、棚田アクティビティの商品開発（新規・リニューアル）に向けた検討・実施が行われた。</li> <li>・ プログラム開発にあたっての情報を関係者で共有した。</li> <li>・ 検証体制を確保でき、安全なアクティビティの実践に向けた人的ネットワークが構築された。</li> </ul>
デザイン	—	—	—
販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発した棚田ビジネスの販売促進・販路開拓のため、連携したPR活動、募集が必要であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援対象や連携組織の意向を把握し、調整を行うとともに、徳島大学澤田氏よりアドバイスを心得、連携型PRづくりを行った。</li> </ul> <p>【中間支援のポイント①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報発信、情報共有に関する連携型PRルール案を作成した。</li> </ul>
広報・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発した棚田ビジネスの販売促進・販路開拓のため、連携したPR活動、募集が必要であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 棚田アクティビティのチラシを作成し、募集を行った。棚田ウェディングは、試行実施後に、今後のPR用として作成した。</li> <li>・ 上勝町の広報誌やホームページ、Facebook「上勝さとやま通信」等を通じて、地元でのPR活動を実施した。</li> <li>・ 試行前に、徳島空港ビルや徳島大学等でのチラシ配布やパネル展示等により、都市部でのPR活動を行った。</li> <li>・ 試行後は、徳島、兵庫（神戸・丹波篠山）、高松、松山、東京などの都市部でPR活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チラシやインターネットを通じた地元、都市部でのPRを通じて、広く取組を周知することが出来た。</li> </ul>
モチベーションの維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援対象の高齢化が進展していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援対象の意識の高揚、やる気の創出のため、高校生や大学生などの若者ボランティアの参画を得るビジネスフレームを構築した。</li> </ul> <p>【中間支援のポイント③】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの若者の参加による、活発な交流が図られた。</li> </ul>

## 2 中間支援のポイント（取組の中で見られた工夫・取組が上手く進んだポイント等）

○工夫点・取組が上手く進んだ点 ○苦勞した点

### ①行政・金融機関・集落組織に加え、大学等の連携組織による信頼感のある人的ネットワークの形成

上勝町が事業全体の調整・支援等の事務局機能を担い、やいたかが各協議会の活動を支援し、徳島銀行が経営的観点からのアドバイス等を行う体制に加え、徳島大学や地元・地元外の 25 団体が連携する連携組織が商品開発や販路開拓の支援を行う実施体制となっている。本事業により、25 団体と連携することができた点が、大きな成果となっている。今後、活動の要となる信頼感のある人的ネットワーク構築に向け、上勝町における体験活動、交流活動、環境保全活動、地域観光活動などの情報を共有し、プラットフォーム機能の構築推進を目的とする組織の発足に取り組んでいくこととしている。

### ②専門家による検証

徳島大学澤田氏や赤十字救急法指導員、上勝自然体験学習研究会代表等の専門家より、「ターゲット・テーマを絞ることが効果的」、「安全管理に関する継続的な人材育成の展開が望まれる」、「PR 時期の早期化、実施の定期化ができる」と効果的である」などの助言を得て、各商品の検証を実施した。

この検証体制をベースとして、今後、より安全なアクティビティを継続的に展開する体制づくりを目指していくこととしている。

### ③若者の参画を得るビジネスフレームの構築

支援対象である 4 つの協議会の高齢化が進む中で、意識高揚、やる気を創出のため、高校生や大学生等の若者ボランティアの参画を得るビジネスフレームを構築するよう配慮した。それにより、多くの若者ボランティアの参加が得られ、各アクティビティの準備から当日の運営参画にまで、多くの若者の活発な交流が図られた。

### ④連絡や情報共有に苦慮

支援対象が高齢のため、連絡や情報共有にメールなどを使用することが難しかった。そのため、連絡・情報共有の役割を連携組織が担い、取組を推進した。

## 3 支援対象の成果

棚田アクティビティ商品 4 点の開発と 1 点のリニューアルを行い、合計 5 点の商品の開発を達成することができた。そのうち、棚田ウェディングについては、1 件の試行を行った。

棚田アクティビティ商品の売上については、当初目標年間 100 万円を上回る年間 310 万円となっており、また、それによる交流人口も当初目標の 300 名を大きく上回る 800 名（年間のべ）となっている。

表 成果目標の達成状況

成果指標	事業開始当初	平成 26 年度目標	達成状況
①棚田ウェディング販売	0 組	1 組（予約）	1 組（試行）
②棚田アクティビティ商品販売の種類	1 商品	5 商品	5 商品
③棚田アクティビティ商品販売の売り上げ	年間 50 万円	年間 100 万円 （連携組織含む）	年間 310 万円 （連携組織含む）

成果指標	事業開始当初	平成 26 年度目標	達成状況
④ 棚田アクティビティ商品の交流人口	200 名	300 名	年間のべ 800 名



棚田ウェディングの様子



棚田ノルディックウォークの様子



棚田ライトアップの様子



棚田オープンファームの様子

#### 4 地域づくり活動支援体制としての成果と課題

##### ◎感動を伴う棚田ビジネス創出の基礎の構築

これまでは、各地区で交流の域で行われていた棚田活用であったが、本事業の実施により、感動を伴う棚田ビジネス創出の基礎ができ、今後の継続実施の可能性を発掘することができた。

##### ◎安全なアクティビティの実践、今後の活動に向けた人的ネットワークの構築

棚田アクティビティの検証支援を実施する中で、日本赤十字社の看護師の参画を得て、検証体制を確保することができ、安全なアクティビティの実践に向けた人的ネットワークの基礎を構築することができた。また、25 団体が参加する連携組織のコミュニケーションが形成できたことから、今後の活動の要となる信頼感のある人的ネットワークが構築できている。

## 5 地域づくり活動支援体制としての今後の展望

### ◎ 4地区の協議会の自立に向けて、多数の組織による連携・協働の取組を実施

今年度の試行支援により得られた課題等を基に、4地区における自立に向けた支援を行っていく。徳島県内に加え、関西圏、関東圏等から幅広く参加を募りモニターツアーを開催し、PR強化を図るとともに、多数の組織が連携・協働する取組を継続して実施していく。

### ◎ 新たな地域での支援の拡大

棚田感動ビジネスの展開に向けて、他地域での支援の拡大を検討している。